

飯田貞雄兄を偲ぶ会



と き 1988年10月23日(日) 午後3時

と ころ 日本基督教団 霊南坂教会

主催 「飯田貞雄兄を偲ぶ会」発起人会

式 次 第

1988年10月23日
霊南坂教会礼拝堂
司式 牧師 高塚 勝

奏	楽		今井奈緒子
讃	美	歌	一 同
聖		書	司 式 者
祈		禱	”
讃	美	歌	一 同
追	悼	の	司 式 者
讃	美	歌	一 同
終		禱	司 式 者
後		奏	今井奈緒子

第二部 「飯田貞雄兄を偲ぶ」

- ・スカウト代表 献花
- ・発起人代表あいさつ
- ・歌「いこい」
- ・追悼の言葉
- ・歌「四団の歌」
- ・ご遺族のあいさつ

- ・スライドによる思い出

第三部 「飯田貞雄兄を語る集い」

於：ホール

【 3 1 2 番 】

- | | | |
|--|---|--|
| 1. | 2. | 3. |
| いつくしみ深き 友なるイエスは、
罪とが憂い ^{なげ} を とり去りたもう。
こころの嘆 ^{なげ} きを 包まず述べて、
などかは下 ^{おろ} さぬ、負える重荷を。 | いつくしみ深き 友なるイエスは、
われらの弱きを 知りて憐 ^{あわれ} む。
悩み ^{なげ} かなしみに 沈めるときも、
祈りにこたえて 慰めたまわん。 | いつくしみ深き 友なるイエスは、
かわらぬ愛もて 導きたも う。
世の友われらを 棄て去るときも、
祈りにこたえて 勞 ^{いたわ} りたまわん。 |

【 2 9 8 番 】

- | | | |
|--|--|--|
| 1. | 2. | 3. |
| やすかれ、わがこころよ、
主イエスはともにいます。
いたみも苦しきをも、
おおしく忍び耐えよ。
主イエスのともにませば、
たええぬ悩みはなし。 | やすかれ、わがこころよ、
なみかせ猛 ^{むさ} るときも、
父なるあまつかみの
みむねに娶 ^{むす} ねまつれ。
み手もてみちびきたもう
のぞみの岸はちかし。 | やすかれ、わがこころよ、
月日のうつろいなき
み国はやがてきたらん。
うれいは永久に消えて、
かがやくみ顔あおぐ
いのちのさちをぞ受けん。 |

【 3 0 1 番 】

- | | |
|--|--|
| 1. | 3. |
| 山べにむかいてわれ 目をあぐ、
助けはいずかたより きたるか。
あめつちのみかみより
たすけぞわれにきたる。 | み神はあだをふせぐ たてなり、
汝 ^{なれ} が身をつねに守る かげなり。
よるは月、ひるは日も
汝 ^{なれ} をばそこなうまじ、 |
| 2. | 4. |
| み神は汝 ^{なれ} の足 ^{あし} を つよくす、
み守りあれば汝 ^{なれ} は うごかじ。
みたみをば守るもの
まどろみねむりまさじ。 | み神はわざわいをも さけしめ
疲れたましいをも やすます。
いずるおり、いるおりも、
たえせず 汝 ^{なれ} を守 ん。 |

〔 聖書 〕

ヨハネ福音書 15 章 12～17 節

わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである。あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを立てた。それは、あなたがたが行って実をむすび、その実がいつまでも残るためであり、また、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものはなんでも、父が与えて下さるためである。これらのことを命じるのは、あなたがたが互に愛し合うためである。

【 飯 田 貞 雄 兄 の 経 歴 】

1933	東京に生れる（1月16日）
1948～1951	東京都立青山高等学校
1952～1956	東京教育大学教育学部特殊教育学科
1956～1959	東京都新宿区立四ッ谷第2中学校教諭
1959～1960	東京教育大学付属中学校教諭・小学校教諭併任
1960～1964	東京教育大学教育学部付属大塚養護学級教諭
1964～1967	山梨大学講師（専攻：障害児教育）
1967～1978	山梨大学助教授（専攻：障害児教育）
1978～1988	山梨大学教授（専攻：障害児教育）
1980～1981	文部省在外研究員（オーストラリア・ビクトリア州立バーウッドカレッジ特殊教育研究施設及びニュージーランド・オークランド大学客員研究者）
1988	すい臓がんのため死去（4月28日 3時27分）

【 著 書 】

〔主 著〕	
『プログラム方式 ちえ遅れの研究入門』	日本文化科学社 '74
『オーストラリア、ニュージーランドの障害児教育と福祉』	学苑社 '83
〔編・共著〕	
『精神薄弱児教育の心理』 '66	『精神薄弱児指導の原理と方法』 '71
『ちえ遅れの子の生活指導—青年期—』 '74	『社会福祉辞典』 '74
『発達遅れた子どもの家庭指導』 '75	『障害をもつ子どもの症状別日常指導』 '76
『重度・重障害児の教育』 '77	『障害をもつ子どもの学習の日常指導』 '77
『情緒障害児事典』 '77	『精神薄弱者の就労』 '78
『精神薄弱教育の基礎理論と実践』 '78	『知能障害の教育と福祉』 '78
『日本の精神薄弱教育—戦後30年—』 '79	『障害児保育の理論』 '80
『特殊教育の研究』 '81	『精神薄弱者問題白書1982年版』 '82
『発達と指導』 '82	『精神薄弱者問題白書1984年版』 '84
『実践精神遅滞児の教育 3 中・高等部』 '85	『障害者教育史』 '85
『心身障害児（者）の心理・教育・福祉』 '85	『ちえ遅れの人の性教育』 '85

【 飯田貞雄兄のボーイスカウト経歴 】

1947～1951	東京第4隊 入隊
1951～1959	東京第4隊 副長
1954～1958	東京連盟 山手地区 地区副コミッショナー
1955	日本連盟 五年特別年功章
1958	東京連盟 有功章
1958～1964	東京連盟 山手地区 第一地区 地区コミッショナー
1959～1964	東京連盟 東京第4団 少年隊 隊長
1960	日本連盟 十年特別年功章
1964～1988	山梨連盟 甲府第5団 団委員
1964～1966	日本連盟 編集委員会委員
1965～1977	山梨連盟 県コミッショナー
1965～1967	日本連盟 組織・拡張委員会委員
1968～1973	日本連盟 トレーニングチーム 副リーダートレーナー
1969	日本連盟 功労章 かっこう章
1969～1972	日本連盟 進歩委員会委員
1969～1976	日本連盟 指導者養成委員会委員
1970～1971	日本連盟 出版企画委員会委員
1972～1973	日本連盟 理事
1972～1973	日本連盟 第1回日本アグーンナリー実行委員会委員長
1973～1988	日本連盟 トレーニングチーム リーダートレーナー
1973～1974	日本連盟 服制委員会委員長
1974～1988	日本連盟 中央審議会議員
1974～1977	日本連盟 障害児スカウト委員会委員長
1977～1988	山梨連盟 理事
1977～1982	日本連盟 指導者養成委員会委員長
1979	日本連盟 功労章 たか章
1980～1988	アジア太平洋地域 指導者訓練小委員会委員
1982～1984	アジア太平洋地域 指導者訓練小委員会副委員長
1983～1988	日本連盟 進歩委員会委員長
1984～1988	日本連盟 国際委員会委員
1986～1988	アジア太平洋地域 スカウト委員会委員
1988	日本国 正四位勲三等瑞宝章

世界ジャンボリー（'63ギリシャ '71日本）
 アジア太平洋国際トレーニングザチームコース（'70ニュージーランド '76台湾）
 世界スカウト会議（'79イギリス '83アメリカ '85ドイツ）
 エクステンションスカウティング国際セミナー（'81香港）
 アジア太平洋地域スカウト会議（'82インドネシア '86タイ）

キャンプの歌

詞 飯田貞雄
曲 志水 功

① ③

しみずのせせらぐ(せせらぐ) そいとについたや(ついたや)
すきはら-かかえて(かかえて) おなべを-つつけは(つつけは)

あの花が-つかに てんとをほろ-う(ほろ-う)
どこのは-んだろ あじがうすいね(うすいね)

みんなで-かかれは(かかれは) しごとは-は-ずむ(は-ずむ)
ゆうはく-さんで(さんで) アイア-か-ニみ(か-ニみ)

あのみちし-たに トイレをほろ-う(ほろ-う)
たのしいなととき いまたよ いま た(いまた)

あせみずだらして ちゆうでほったが これほ
フ-きもににに ス-ズ-イ-ルで ほんとは

ま-りたよ いしとよ-いし た
お-ンゾは い-いた-い た

II

Handwritten musical notation for the first system. The treble clef staff contains the melody with lyrics: と お い お や ま に ち が お ち て . セ. The bass clef staff contains accompaniment with a chord labeled Hm. Chords C, G7, and C are indicated above the treble staff.

Handwritten musical notation for the second system. The treble clef staff contains the melody with lyrics: う え い す ん ち さ き ゃ う ほ ぶ し た. The bass clef staff contains accompaniment with a chord labeled Hm. Chords F, C, G7, and C are indicated above the treble staff.

A series of empty musical staves, consisting of ten sets of five-line staves, intended for further musical notation.

